

特集／小さな町の大きな挑戦 りんご海外輸出

まちの話題／「朝日ふれあいスポーツクラブ」プログラム体験会、宮宿小学校百人一首大会、海の子山の子交流会 山のつどい、寒河江西村山日中友好協会料理教室、Asahi自然観20周年スキー場まつり

真冬の手作りアイスおいしそう！

（2月6日：海の子山の子交流会）
※ 15 頁に関連記事

広報 あさひまち

2010 年 2 月号
No. 639

特集

プロジェクト

A *sahimachi*
pple

小さな町の大きな挑戦 りんごの海外輸出

福島産なのに「朝日町産」

この記事が1月14日地元新聞紙面上に大きく掲載されました。

これは、海の向こうの台湾で、福島産のりんごをPRするチラシに、「山形県朝日町産」の文字が並んでいたものです。地元産地として、この事実は憤慨するものですが、裏



世界第2位の高さ（509 m）を誇る
台北市のシンボルタワー「台北101」
上の4枚の写真は台北市内の様子



県産リンゴの最大の輸出先は台湾で、福島県産リンゴをP
Rするチラシに「山形朝日町産」とのはんこが押され、出回
っていることが13日、分かった。県内の関係者は「朝日町ブ
ランドが無断で使われた」とみている。今回のケースは同町
産リンゴが県内で高い評価を得た証しともいえるが、「朝日
町」の名称が台湾で商標登録されていないことも課題として
浮き上がっている。町関係者は今月下旬に現地へ赴き、
チラシの調査や商標登録についての検討を進める。

福島産なのに「朝日町産」

台湾 国産リンゴのチラシ

関係者現地へ／高評価も裏付け



今回のチラシは、同町産リンゴをPRするもので、同町関係者は「朝日町産」という名称が、同町関係者の許可なく、台湾で使われていることを確認した。同町関係者は「朝日町産」という名称が、同町関係者の許可なく、台湾で使われていることを確認した。

今回のチラシは、同町産リンゴをPRするもので、同町関係者は「朝日町産」という名称が、同町関係者の許可なく、台湾で使われていることを確認した。同町関係者は「朝日町産」という名称が、同町関係者の許可なく、台湾で使われていることを確認した。

を返せば、それだけ産地としてのブ
ランドが確立されている証拠。胸を
張っていいことと言えます。

しかし、いったいどれくらいの方
がご存じだったでしょうか。朝日町
のりんごが海外に輸出され、これだ
けの評価を得ていることを。

今回の特集では、海外という全く
手がかりのない状態から、これだけ
認められる産地にまで成長した町の
「りんご輸出事業」の軌跡を追いま
した。

平成22年1月14日山形新聞朝刊

台北101の展望台から見た台北の市街地
およそ九州と同じ面積に、人口約2,300万人を擁する台湾。
実質的な首都で、最大都市である台北市内には260万人が暮らす

特集

プロジェクト

A *sahimachi*
pple



選果を待つ「ふじ」

「朝日町のりんご」を世界に！アイジー工業(株)から1000万円のご厚意

町のりんご輸出については、平成14年まで話がさかのぼります。

そもそのきつかけは、町内三中に工場を持つ「アイジー工業株式会社(金田直治社長、本社:東根市)」から同年8月に町が寄付を受けたこと。当時、同社は大手企業と業務提携したことを機に、本社のある東根市、そして工場を置く朝日町と寒河

輸出前夜

可能性の模索

平成14年度、15年度

CHAPTER 1

江市にそれぞれ1000万円を寄付しました。

ユニークなのはこのあと。寄付に際し、同社の創業者で、業務提携を機に社長から会長職へ退いた石川堯^{たかし}氏は、それぞれの市町に用途を提案。朝日町には「特産のりんごを世界に広める活動に使って欲しい」と求めました。これは、海外出張の多かった同氏が「世界中で朝日町のりんごほどおいしいりんごはない」とその味を絶賛し、ぜひそれを実現するよう提案したのでした。

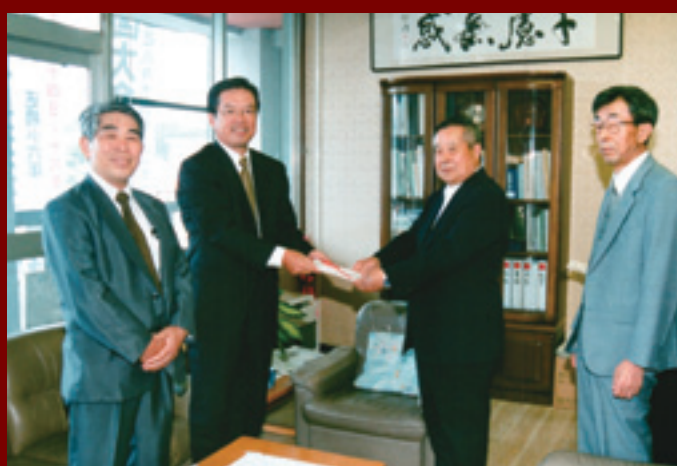
輸出事業を苦境に立つ町のりんご産業の起爆剤に

この提案を受け、町ではまもなく輸出の可能性の調査に入りました。

朝日町のりんごは、昭和40年代の「無袋ふじ」デビュー以来、ブランド品として、全国にその名を馳せてきました。平成5年頃までは栽培面積、生産量ともに順調に推移し、平均単価も1キログラム320円ほどで、品質の良いものを栽培すればそれなりの値段で取引される時代でした。



りんご産業の起爆剤として、平成13年度に投入された「シナノスイート」



アイジー工業(株)金田社長より 1,000 万円の目録を受取る清野隆前町長。左端が創業者の石川会長 (平成 14 年 8 月)

しかし、バブル崩壊後の平成9年に、りんごの価格が大暴落。キロ単価は180円まで落ちこみました。その後も消費の低迷や、産地間競争の激化などにより、りんごを取り巻く環境は非常に厳しい時代を迎えていました。

町としても、平成13年度から、新品种シナノスイート(当時の販売名は『あじぴか』)を町内6つの生産組合が協力して出荷するなど、苦境を打破する新たな試みを行っていましたが、その後無登録農薬の問題もあり、一度高まった士気が下がってしまうありました。このような背景から、町ではこの輸出事業を実現することで、生産者の所得や生産意欲を向上させるためのさらなる起爆剤にしたいと考えていました。

フランス大使館へりんごを直接持ち込む

その後、町担当者が山形県の農林水産部を皮切りに、りんご輸出の先進地である青森県や岩手県に問い合わせ、各県の情報を収集。町単独で

の輸出の可能性を探る日々が続きましたが、なかなかいい情報は得られませんでした。

また、当時すでに輸出の経験を持つていたJA全農山形にも問合せましたが、返ってきたアドバイスは「採算が合わないからやめた方がいい」というものでした。

当時、これらの情報収集と並行して進めていたのが、海外の大使館へ直接りんごを持ち込み、食べていただくことで輸出のきっかけを模索する方法でした。

その対象として選んだ国がフランス。これは、そもそものきっかけであるアイジー工業の石川会長が、ヨーロッパへの輸出を想定していたことなどが理由。今振り返れば、常識知らずの向こう見ずな行動だったかもしれませんが、平成15年の夏頃から電話等で何回か交渉するうちに、その年の秋に収穫されるりんごの持ち込みを許可をされたほか、大使館員よりその後の有効な相談先として紹介されたのが「ジェトロ(日本貿易振興機構)」でした。

ジェトロとの出会いと「輸出見送り」の結論

ジェトロ(JETRO)とは日本の貿易振興に関する事業や、アジア地域等の経済や関連する諸事情について調査研究などを行い、これらの地域との貿易の拡大、経済協力の促進に寄与することを目的としている機関です。町では、平成15年8月に初めてこのジェトロ山形センターを訪問。それ以降、海外貿易に関する様々な情報が寄せられるようになり、そのノウハウも蓄積されていきました。

しかし、いろいろな情報収集や検討を踏まえて、当時達した結論は、輸出は見送り」というもの。「海外輸出の前に、生産体制の確立や国内での消費対策など、身近な問題を解決・充実していくことのほうが先決」との内容でした。こうして、平成14年後半からスタートした輸出の調査は平成15年の秋でひとまずの区切りを迎えたのでした。



台北市内の高級百貨店に並ぶ朝日町産の「ふじ」
2個入 800 円超の高値で販売されている

特集

プロジェクト

A *sahimachi*
pple

試行錯誤の船出

台湾輸出へ

平成16年度、17年度

CHAPTER 2

広報あさひまち 2月号

巡ってきたチャンス 青森の商社からのオファー

その後、数カ月が経過して迎えた平成16年の春、チャンスは突然巡ってきました。

「輸出は見送り」との結論以降もジエトロからは随時いろいろな情報 が寄せられていましたが、同年6月、ジエトロと県を介して、台湾へりんごを輸出している青森県の商社から、青森よりも早い時期に出荷できる産地として、町に輸出の打診があ

りました。その後、町は町内6つの果樹組合の組合長で組織する「朝日町果樹組合連絡会議」を開催し、生産者へこれまでの経緯と打診の内容を報告しました。

当時、同会議の代表を務めていたのが、前町センターりんご組合長で現在は町りんごアドバイザーを務める井澤壽一さん（夏草）。その時の様子をこう振り返ります。「当時は役場だけではなく、生産者の誰もが危機感を持つており、それを打破する糸口を探していました。会議では最終的に、『ただ待っているばかり

では何も始まらない。これからは攻めの農業が大切だ』と意見が一致し、6つの組合の組合員約320人が協力して、輸出に臨むことを決めました。ただ、海外という未知の地域だけに当然不安がる声があったのも事実です…」。

この結論を踏まえ、平成16年度は青森県の商社の仲介で、台湾第三の都市で、人口約100万人を擁する、台中市のバイヤーと契約。輸出への第一歩を踏み出しました。

試行錯誤の船出

課題山積の初年度

海外輸出の根本的な捉え方については、輸出先を新たな消費圏と考え、国内出荷の調整市場として出荷するのか、海外でのブランド確立を目指す出荷するののかという2つの選択肢がありました。町としては、最終目標は農家所得の向上であることから後者を選択し、海外の富裕層をターゲットにして、より高い価格設定で販売することを決定しました。



JAの選果場（和合）で旅立ちの時を待つ台湾行きのりんご



台湾で朝日町産りんごの売り上げが最も多い高級百貨店「太平洋SOGO（そごう）」日本でいう「銀座通り」の中心部に位置する

山形県農産物輸出
コーディネーター

もと
漆原 意氏



東京都出身。小学3年から高校まで山形で過ごし、その後アメリカの大学へ進学。卒業後、現地の商社へ就職。帰国後はアパレル関係の輸入卸に約2年間従事し、その後平成15年6月より現職。42歳。

朝日町のりんごは、品質面では国内市場で消費者の評価も高く、ブランドとして確立されていることから、当初は「台湾でもそれなりの価格で販売されるのでは…」という期待を持っていましたが、その夢は簡単に崩れ去りました。

台湾では、「りんご」イコール「青森」という図式がすでに出来上がっており、朝日町りんごは全く通用しませんでした。品質は良くても、市場に出てしまえば他県産りんごと同様の価格設定になってしまうことから、改めてブランド確立のための明確な戦略が必要であることを認識させられました。

明確なブランド化戦略へ 平成17年度以降の取組み

そのほか、段ボール箱の強度の問題も発生し、初年度は色々な課題が浮き彫りとなりました。

翌年も同じ商社より同じ形態での輸出の打診がありましたが、最終的には価格面で折り合いがつかず、一時は輸出そのものに暗雲が立ち込めました。そんな時、山形県経済国際化推進協議会の山形県農産物輸出コーディネーターの漆原氏から、台湾の高級百貨店における贈答品用販売の打診がありました。

当時の台湾におけるりんごの価値は、赤くて大玉であることがメインで、味は二の次でした。そのため、青森産の「世界一」が高価格で販売されている状況でした。その意味で、町としては、当町産の蜜入りりんごを一度味わっていただければ、勝算はあると考えていました。

そこで、台湾最大の都市、台北市内の高級百貨店「三越」や「太平洋SOGO（そごう）」などに青果物を卸しているバイヤーを町内に招へい。町のりんごを試食して頂き、味の良さ、品質の良さを理解してもらいました。

認められ、同年から朝日町りんごを全面的に販売する確約を取り付けることに成功。現在も続いている流通ルートがこの時初めて出来上がり、この年以降、りんごの季節になると毎年朝日町産のりんごが台湾の高級百貨店に並ぶようになりました。価格は1個あたり約400円前後の高値でしたが、消費者には品質、食味、そして何よりも蜜が入っているということが喜ばれ、箱に印刷された朝日町の天狗印マークのりんごとして徐々に認知され、ブランド品として評価を得るようになりました。

その結果、蜜入りりんごの品質が



販促活動のため台湾のテレビショッピングに出演する
町のりんご生産者ら（平成22年1月）



農産物などの特産品を売り込もうと、近年台湾の高級百貨店では、日本の各産地が熾烈な争いを繰り広げている

産地間競争が台湾にも波及 他の農産物との競争も

平成18年以降も台湾からは同じルートで注文をいただき、徐々に現地のバイヤーの信頼を得ています。しかし、絶対的なブランドを誇る青森県など他の国内りんごの主産県も近年は台湾をターゲットに次々と輸出に力を注ぎ、県をあげた販売促進活動が展開されています。

また、りんご以外を見ても、台湾には日本からの様々な農産物がここ数年で急増しています。これらの中から当町のりんごを選んでいただく

特集

プロジェクト

A *sahimachi*
pple

ステップアップ

アジア諸国へ

平成18年度～20年度

CHAPTER 3

には、様々な工夫が必要となっており、また現地の商社からも他県に負けないような販売促進活動を強く求められています。

このようなことから、平成17年度以降は、台湾で最も消費が活発化する2月上旬頃の旧正月（日本の年末商戦のようなもの）直前に毎年町長や生産者が現地を訪問。商品を取り扱う高級百貨店で試食販売を展開しています。

また、「朝日町」イコール「天狗印」というイメージを植え付けるため、天狗印シールを商品一つ一つに貼りつけたり、天狗印の携帯電話クリナーをプレゼントする取組みも

行っているほか、平成19年度以降は地元テレビ局とタイアップし、テレビショッピングにも出演するなど、ブランド定着に向けたいろいろな取り組みを行っています。

さらなるステップアップ
タイ、香港、そして中国へ

近年は、多くの日本の産地が台湾を海外最大のマーケットとして捉えています。町ではこういった環境の中でも安定した輸出事業を行っているために、台湾で築き上げたブランドを武器に、他のアジア諸国へ輸出



J Aの選果場（和合）を訪れたタイの市場関係者にりんごの説明を行う町の担当職員（平成 17 年 10 月）



台北市内で朝日町のりんごをPRするラッピングカー（平成 20 年 1 月）

を行う戦略をすでに展開。平成 18 年度からはタイ、そして 19 年度からは香港にも輸出を行い、今後は中国も視野に入れています。

その理由として、台湾では一流品の需要が多いのに対し、特にタイの市場には中国の品質の高くないものが多く出回っていることもあり、台湾よりも下の等級のものでも十分な需用が見込まれる状況にあります。実際、生産されるりんごを出荷の段階で選別した場合、台湾が求める一流品だけでなく、その一段階下の等級のりんごが量的には最も多く、これら十分な量を確保できる等級品の輸出を伸ばすことが、農家所得の向上へとつながっていきます。

また、輸出品種も最初は「ふじ」のみでしたが、輸出可能な品種は他にもあり、年々品種や大きさの幅も拡大してきました。一例をあげると、タイでは「ふじ」でも小玉の需要が高かったり、香港では「王林」が好まれたりと、国によって嗜好が異なることから、今後は様々な品種を紹介し、その国にあった品種の輸出を拡大していく努力も行っていく必要があります。

新たな課題

ブランド力の維持

平成21年度の取組みと今後の課題

ブランド力の維持のため、品質管理の徹底を

今年度は10月のシナノスイートを皮切りに、計4品種を台湾、タイに出荷。台湾については、1月29日から31日にかけて、町長や生産者ら11人が現地を訪問し、高級百貨店4店舗で販売促進活動を行いました。一

昨年から続く世界的な不況や円高等の影響もあり、一時期の勢いはなかったものの、8個入り一箱約3200円の贈答品を中心にまずまずの売れ行きでした。

この時期に販売される「ふじ」は、

毎年12月以降に出荷し、現地の冷蔵庫に保管されているものですが、今年是一部贈答用と言えないようなものも含まれていました。理由としては、選果レベルの問題や収穫・出荷からの時間の経過、輸送の際の温度管理などが挙げられますが、いずれにせよ今後改善が求められます。

県農産物輸出コーディネーターの漆原氏は「毎年購入するというリピーターが増えており、台湾における朝日町りんごの認知度は確実に上がっています。ただ、消費者が朝日町のりんごを「ブランド品」として購入する以上、それを今後も維持するた

朝日町産りんごの輸出量の推移（朝日町産業振興課調べ）

年度(平成)	輸出国	輸出量(t)	金額(万円)	品 種
16	台湾	14.0	300	ふじ
17	台湾	6.0	240	ふじ
18	台湾、タイ	12.8	526	シナノスイート、王林、ふじ
19	台湾、タイ、香港	20.8	740	シナノスイート、王林、ふじ
20	台湾、タイ、香港	37.0	1,213	シナノスイート、シナノゴールド、王林、秋陽、ふじ
21	台湾、タイ	21.5	695	シナノスイート、シナノゴールド、王林、ふじ

※町産業振興課によれば、輸出は低迷する国内市場価格と比較し、1～2割程度高く安定した価格で取引されているという

めの品質管理が重要です。農産物ですの年でよって一流品の数量にばらつきが出るのは仕方ないことですが、だからと言って二流品で穴埋めすることは許されません。ブランドの確立や維持は小さなことの積み重ねです。その一つ一つを確実に行う必要があります」と話しています。

まとめとむすび

輸出の目的を再確認

朝日町のりんごはこの6年間で台湾を中心にブランド品として認められるようになりました。町が行った平成20年度実績からの試算によれば、輸出事業は、国内市場と比較して、1～2割ほど高く安定した価格で取引されています。このことから、川口幸男町産業振興課長は「輸出は確実に利益を生んでいます。生産者のさらなる出荷協力を期待したいと思います」と話しています。

ただし、その数量を見てみると、これまで最も多い平成20年度でも37トン、1200万円程度にすぎません。町では町内の全りんご生産量の1%にあたる80トンを出産目標に掲げていますが、達成までにはもうしばらくかかる見込みです。

町にとって、りんごを輸出する最大の目的は所得の向上にあります。海外の富裕層にりんごを高い値段で買っていただくだけがその手段ではありません。輸出によってりんご農家の方には「自分たちが育てたりんごが、海外の高級百貨店で販売されている」という自信と誇りの意識が芽生え、それはやがて、産地の元氣やりんご産業の活性化につながっていきます。また、輸出事業が新聞、テレビで紹介されることにより、国内においても町のりんごのイメージアップ効果を生み、間接的に所得の向上へつながっている面もあります。実際、ここ2～3年ほどは11月の町産業まつりへりんごを求めにお越しただく方が確実に増えていきます。そうした意味で川口課長は「実際の販売数量や金額以上の効果も生んでいます」とも話します。

りんごが町の農業産出額の約5割を占めている朝日町。その事実を考えれば、りんご産業の活性化が町農業、ひいては町全体の活性化へとつながります。課題等もありますが、今後はその一つ一つを確実に克服し、朝日町が国際的にも競争力のあるりんごの産地に育つことを期待します。

挑戦する海外りんご輸出

「逆境もよし、順境もよし、要はその与えられた境涯を素直に生き抜くことである。」これは松下幸之助氏の言葉です。

朝日町産業の振興と、りんご生産者の所得向上の一環として進められてきた朝日町りんごの海外輸出が始まって今年で六年目。台湾での町長トップセールスも今回で三回目となりました。世界経済の影響もあり、台北市内の経済環境もその年々により多少の変化も垣間見られました。それでもりんご一個で四百円台の高値は、さすが台湾きっての高級百貨店ならではの地力と、その期待と信用に応え続けていくことができた朝日町りんごの確かな品質の提供があつてはじめて成し得る業と言っても過言ではありません。

そんな中、出発前の一月十四日、山形新聞に掲載された驚きの記事が、ま



台北市の太平洋SOGOで試食販売を行う鈴木町長（1月29日）

私が担当したのは、「微風広場」というショッピングセンターです。ここは、各種ブランドのショップやレストラン、映画館もあるところで、現地のガイドによると、台湾の中では太平洋 SOGO や新光三越よりも、高級なショッピングセンターとのことでした。

価格的には、2 個入りパックが約 900 円、5 キロ箱が約 6,500 円、3 キロ化粧箱が約 4,800 円で販売されていました。これに対し、秋田産や青森産のりんごは、2 個入りパック 400 円前後の低価格で販売されていました。

いずれも日本ではちょっと考えられないくらいの価格ですが、朝日町産は「蜜入り」を売りに PR を行いました。試食では「ハオチー（おいしい）」と評価していただき、他産地のりんごよりも多く売れていたように感じました。

ただ、台湾は真冬にあたる 1 月でも日中の温度が 20℃前後と山形に比べると非常に温暖な気候です。また 1 月末の販売ということもあり、収穫から時間の経過なども影響して、硬度が低くなっており、輸送及び保管方法などの面でまだまだ改善していかなければならないと感じました。

現地の果物とりんごを比較した場合、朝日町産のりんごは非常に甘くおいしく感じました。今後も台湾経済や健康志向が高まるにつれ、日本産食品の需要が高まっていくように思いました。



『微風広場』で試食コーナーを展開する
阿部さん（左）と井澤さん（右）



テレビショッピングの
収録に臨む小林さん

台湾については、昨年に続いて 2 回目になります。

私が担当した太平洋 SOGO、微風広場などには日本産の果物が高い値段でたくさん並んでおり、その中に朝日町りんごもありました。片言の中国語、手まねで試食販売を行いましたが、昨年と比較して、少し売れ行きが鈍いように感じました。

台湾のお客様が求めているりんごの条件は「見た目がきれい」で「蜜が入っている」こと。今年はテレビショッピングにも出演し、朝日町りんごを PR しましたが、残念なことに、用意したりんごには蜜がほとんどなく、カメラの前で思わず赤面してしまう場面もありました。

今年も間もなくりんごの作業が始まりますが、国内でも海外でも、生産者としては「おいしいりんご」を作ることが第一です。今後の輸出事業も期待しています。

台湾でのりんご販促活動は 5 回目になります。私は 29 日午後より太平洋 SOGO で行いましたが、客足が例年より少なく感じました。世界不況や円高が理由と思われるが、その他にも今年は旧正月が遅く、本格的な商戦にまだ入っていなかったことも影響しているようです。入店後間もなく、試食用のりんごをカットしたところ、果肉が軟らかく、色目もバラつきが目立ち、初日から驚きと疑問を感じました。

続いて 2 日目のテレビショッピングの収録の際も、用意したりんご約 60 個に全く蜜が入っていませんでした。3 日目の試食コーナーも同じ。用意するりんごはやはり果肉が軟らかく、実割れの潜入や内部褐変（腐食）も見受けられるなど、今年は反省点や課題が多く見つかる販促活動となりました。

この原因については、複数予測されますが、このままの状態が続けば、これまで確立されつつあった信頼も揺らいでしまいます。信頼をもう一度しっかりと築き上げるためにも、「慣れ」ではなくもう一度初心に帰る必要があります。具体的には、日本から台湾の消費者までの流通管理マニュアルを作成することが必要と感じました。輸送条件や温度管理などを徹底させることが急務です。

これからは東南アジアの首都をはじめ、地方都市にも進出していくべきだと思います。そのためにも、生産者、町、農協等が今まで以上に一つになって取り組んでいく必要があると思います。

▼阿部隆浩（センターりんご組合）

▼小林幸子（大沼果樹組合）

▼井澤壽一（町りんごアドバイザー）

さに朝日町りんごの台湾におけるステータス、ブランド確立の序章への扉が開かれた一瞬でありました。福島産りんごチラシに「山形朝日町」の横印。産地名無断登用は、台湾での商標登録への対応の稚拙さの現れでありましたが、同時に、台湾における「朝日町」ブランドの進展の現れでもありました。

ビジネスが成功するか否かは、顧客がその対価を支払って満足し喜んでもらえるかどうかと、売り手がそのビジネスによって利益が得られるかどうかであります。戦略・戦術は様々ありますが、要は消費者に信頼されるかどうか、喜んでいただけるかどうかが成否の分かれ目になります。一度築かれた信頼は未来永劫ではないと認識すべきであります。それは生産から流通、販売と一貫した流れの中で、どの過程でも欠いてはならない生産物の思いやり、消費者への思いやり、このことを少しでもないがしろにした時、それまで長年の年月をかけて築き上げてきた信用というブランドが、一瞬にして失われてしまうということを決して忘れてはなりません。

将来に渡り、社会情勢や人々の嗜好など様々な変化に伴う厳しい局面に向き合わなければならない場面が来るかもしれないかもしれません。そんな時、百二十有余年多くの先人たちが築き上げてきた朝日町りんごに対する「苦勞」と「情熱」、そしてなによりもりんごに対する「愛情」をしっかりと受け継ぎ次世代に伝えて行くことが、海外輸出のみならず、りんご産業の更なる発展に、必ずやつながるものと信じています。

朝日町長 鈴木浩彦

「今あるは過去からの賜物、今あるは未来への土台」

オープンまで残すところあと1カ月半となった子育て支援拠点施設の最新情報をお知らせいたします

あさひ保育園

子育て支援センターあさひ



Q 4. 定員と入園予定者は？

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定 員	5人	30人		55人	55人	55人	200人
ク ラ ス	1	2		2	2	2	9
入園予定者	3人	10人	19人	47人	48人	53人	180人

クラスの年齢は入園する年の4月2日現在の満年齢となります。ただし、3歳児未満については、子どもの成長度に合わせて弾力的に保育させていただきます。

Q 6. 通園バスはどうなるの？

子育て支援の一環として利用料金が無料になります。
運営やバスの維持管理も今後は町が行います

Q 5. 子育て支援センターの役割と概要は？

子どもたちの遊びの場や親同士の交流の場として期待されるほか、また子育ての悩み相談や子育て講座（パパママ学級、祖父母学級など）も開催が予定されています。

遊び場は、保護者が責任を持って利用することを原則に、おおむね小学校低学年まで利用可能。町外在住者も利用できます。

運 行 形 態	園児バス2台を利用 今後総合交通体系の中でさらに検討
運 営 管 理	町が行います
運行時間や停留所	保護者参画による運営委員会で調整
運 行 日	土曜日・自由登園日を除く開園日
料 金	無料

利 用 者	子育て中の保護者とその児童
開 館 時 間	午前9時30分～午後3時30分
休 館 日	年末年始および第3日曜日、毎週木曜日
施設での飲食	エリアを設置



Q 7. 保育園の園歌を募集していましたが、結果はどうだったの？

松田昌弘さん（大町）の作品が新しい園歌に選ばれました。

町内外より8人計10曲の応募があり、町民各層の代表者からなる選考委員会で審査を行った結果、松田昌弘さん（大町）が作詞作曲された「わたしのともだち」が、あさひ保育園の園歌に決まりました。開園式で子どもたちが元気の歌声を披露する予定です。

Q 8. 開園までのスケジュールは？

建物完成後、一般公開も行います。

完 成	2月26日（金）
引 越	3月5日（金）～6日（土）
一 般 公 開	3月13日（土）～14日（日）
卒園・閉園式	3月28日（日）
新年度入園式	4月3日（土）

もうすぐ開園



Q 1. 新たに創設、拡充される特別保育を詳しく教えて！

特別保育項目	区分	保育内容	
0歳児保育	新規	生後6カ月の乳児から。定員5人で実施	
1・2歳児保育	充実	現在、さゆり保育園でのみ、18人定員で実施していますが、30人定員に増やして実施します。早朝、延長保育も実施	
早朝・延長保育	充実	現在午前7時30分から行っている早朝保育を、4月以降は午前7時から実施します。延長保育は現在と同様、午後4時から午後7時までとなります。 ※おやつ代などの延長保育料をご負担いただきます。	
一時・短期保育	新規	保護者の急病や入院等で、一時的に必要な期間のみの保育として、新たに実施します。	
		一時保育 冠婚葬祭・疾病・仕事などで一時的なニーズのための保育 ・期 間 週3日、月14日以内 ・時 間 午前8時30分～午後4時 (早朝・延長保育可) ・対 象 6か月から小学校就学前まで ・保育料 3歳児未満1日3,000円 3歳児以上1日2,000円	短期保育 出産・疾病・仕事など短期的なニーズのための保育 ・期間 1か月単位(最長2か月、年2回まで) ・時間 午前8時30分～午後4時 (早朝・延長保育可) ・対象 6か月～小学校就学前 ・保育料 通常の保育料に準ずる
発達支援保育	継続	集団生活ができる程度の障がいを持つ子どもの受入れ	



Q 3. 職員体制はどうなるの？

国の基準に基づいた職員数を配置します。

保 育 士	22人
保育助手	4人
看 護 師	1人
調 理 師	2人
調理助手	2人

現在のところ、保育士22人のほか、看護師も一人配置する予定です。調理師等も含めると31人の職員体制になる予定です。

Q 2. 土曜日の保育は？

平日同様の保育環境を整えます。

今年度までは、毎月第1・3・5週の午前中のみでしたが、4月以降はすべての土曜日に平日と同様の保育を行います。

ただし、昼食とおやつは持参していただきます。また送迎もお願いいたします。

早朝保育・延長保育も実施します。

※原則的に事前予約が必要です。

参考：国が定めた基準です。

0歳児	概ね児童3人に保育士1人
1歳児	概ね児童6人に保育士1人
2歳児	概ね児童6人に保育士1人
3歳児	概ね児童20人に保育士1人
4歳児	概ね児童30人に保育士1人
5歳児	概ね児童30人に保育士1人



いもがわ少年教室「かんじきづくり」
(2月11日/西部公民館)

まちの話題

ここで紹介した情報以外にも、ホームページ内「まちの写真館」には写真がいっぱい。見てね！



「うまく書けたよ」
(1月7日/大谷小書き初め大会)

総合型地域スポーツクラブ「朝日ふれあいスポーツクラブ」プログラム体験会 (1月24日/創遊館)

6つのプログラムの体験会 約200人がさわやかな汗を流す

今年4月から総合型地域スポーツクラブ「朝日ふれあいスポーツクラブ」の活動が始まるのを受け、そのプログラム体験会が1月24日創遊館で開催されました。

この日用意されたのは、①「はじめてのルーシーダットン(※1)」や②「健美操(※2)」、③「はじめてのエアロビクス」、④「エンジョイ吹矢(スポーツ吹矢)」など6教室。女性を中心に約200人が訪れ、それぞれのプログラムを楽しみながらさわやかな汗を流しました。

ある参加者は「どのプログラムも気軽に取り組める内容で、楽しく運動させていただきました。今回は参加者のほとんどが女性でしたが、男性も参加しやすいような工夫があれば、さらに有意義なクラブになると思います。4月以降も入会したいと思います」と語っていました。



はじめてのルーシーダットンの様子

※1 ルーシーダットン

タイ生まれのヨガに近い健康法。リラクゼーション効果で、血液循環を活発にする効果があります。

※2 健美操

呼吸法、東洋医学を取り入れた健康体操。運動しながらツボ・経絡を刺激することで、内臓を調整し、心も穏やかに整える体操です。

宮宿小学校百人一首大会 (2月5日/宮宿小学校)



真剣勝負に悔し涙も

宮宿小学校5・6年生による百人一首大会が2月5日開催されました。

同校では数年前から全校で百人一首に取り組んでおり、すべての学年で始業前の15分ほどをその時間にあてています。現在は日頃の取り組みの成果を発表するため、低・中・高学年の3部門ごとに毎年1回校内大会を開催しています。

大会は、2人が向かい合って対戦。先生が上の句を詠むや否や、児童は素早い動きで反応し、次々に札を取っていきました。中には負けた悔しさに涙を見せる児童も数名いるなど、終始真剣勝負が繰り広げられていました。

結果は5年生の今井祐太くん(大町/写真左)が優勝。過去にはお兄さんも優勝経験があるとのことで、兄弟での大会制覇となりました。



海の子・山の子交流会 山のつどい

(2月6日／Asahi自然観ほか)

吹雪にも大はしゃぎの七ヶ浜町の児童

2月6日、「海の子・山の子交流会」の「山の集い」として、宮城県七ヶ浜町の松ヶ浜小学校の児童ら約30人が朝日町を訪れました。

この交流会は、平成14年度から毎年開催されているもので、今年度で8年目。朝日町（山の子）と七ヶ浜町それぞれの児童（海の子）が風土の異なる互いの町を行

き来することで、日頃できない体験を行うものです。

この日は今季一番の寒波が訪れ、大荒れの空模様でしたが、ほとんど雪の降らない七ヶ浜町の子どもたちは、吹雪にも大はしゃぎ。迎える側の宮宿小児童とともにAsahi自然観でのゴムチューブ滑りや手作りのアイスクリーム作りなどで山の冬を満喫しました。

寒河江西村山日中友好協会 料理教室

(2月7日／開発センター)

餃子など本場の中華料理で交流

2月7日寒河江西村山日中友好協会が主催する「日中友好料理教室」が開発センターで開催され、約20人が参加しました。

同教室は料理を通して中国との友好を深めることを目的に毎年西村山地域の市町で開催されているもの。講師はともに中国黒龍江省出身の菅井しずかさん（沼向）と長岡純子さん（松原）が務め、メ

ニューは水餃子、春巻きなど家庭で手軽に出来るもので、餃子は皮作りから行いました。

交流試食会では「本場は味がしっかりしている」など感想がある一方、講師に隠し味を積極的に尋ねる場面もありました。また、「いただきます」など中国語のあいさつなども教えていただき、終始和やかな雰囲気での交流となりました。



「おかげさまで20年」 Asahi自然観スキー場まつり

(2月7日／Asahi自然観スノーパーク)

朝日町の冬をホットに満喫！！！！

Asahi自然観20周年記念イベントとして、2月7日同スキー場まつりが開催されました。

この日は青空も顔を出す好天。前日からの雪でふかふかのパウダースノーに包まれた会場に家族連れなど約1,200人が訪れました。

この日用意されたメニューは、町内愛好者の協力によるスノーモービル体験や、そりあそび、そして

スノーフラッグ大会など。特にスノーモービルコーナーは、そのスピード感を味わおうと多くの子どもたちでにぎわい、3回、4回と回数を重ねる子どもの姿もありました。

また、直径約10mの巨大かまくらの中で、あつあつ玉コン、甘酒を味わいながら家族、友達とおしゃべりを楽しむなど、来場者は朝日町の冬を満喫しました。



38年間の教員人生を終えた昭和56年4月、「町史編さん専門員」として、第二の人生がスタートしました。当時はまだ59歳でしたが、以降、今日までの28年9カ月にもわたってこの仕事に携わることになるとは思ってもみませんでした。

その頃の「町史編さん室」は「文化財調査委員」だった佐直信雄先生、海野富太郎先生と私の三人体制。開発センターの2階にあった町立図書館の狭いスペースに、3人が寄り添うように机を並べていました。

その後、お二人の調査研究結果などを元にした小史(※1)『朝日町の歴史』が昭和63年に発行され、それを機にお二人が翌年退任されました。編さん室には私一人が残り、それ以降、町内に残る中世の城館址研究や朝日町合併前の旧町村役場の

今 輝いて

28年余りの歳月を捧げた「朝日町史」がついに完成

鈴木 治郎 さん (元町)

大正11年生まれ。村山農学校卒業後、教員養成講習を経て山形県教職員に奉職。専門は中学技術家庭。昭和17年西五百川青年学校を皮切りに、西村山管内の中学校で教鞭をとる。昭和49年小学校校長として立木小に赴任し、昭和56年3月上郷小学校を最後に退職。翌4月から平成21年12月28日まで28年9カ月にわたり町史編さん専門員を務める。現在87歳。

重要文書の整理保存に携わってききました。そんな日々を送るうちに募っていたのはいわゆる通史(※2)への思い。当時の市町村では、すでにその編さんが始まっていて、

もいち早いその取組みの必要性を感じていました。また、平成7～8年頃からは全国的に市町村合併の話が始めていたこともあり、朝日町という行政組織が永続するか不透明な状況でした。その点でも町の足跡をきちんと記した通史の必要性を感じていました。

その後、思いを教育委員会へ伝えると、これが認められ、平成10年4月に「編さん専門員」が一人増員されました。そして12年10月には、横山昭男山形大学名誉教授を委員長とする町史編さん委員会が発足し、正式に作業が始まりました。

町史編さん員としての仕事は、歴史が小さな出来事の積み重ねで成り立っているように、とても

地味なものです。ある事実を裏付ける古文書を探したり、解説したり…。そのほか、各項目ごとの執筆者や専門家と連絡を取り、進行状況を把握したり、事実関係に誤りがないか確認したり…。特に目立つような仕事はありません。

作業がスタートした当初は、町が誕生50周年を迎える平成16年度にその記念事業の一つとして上巻を、翌年に下巻を出版する予定でした。しかし原稿の遅れや、項目ごとに執筆者が異なることによる内容の重複、また資料の不備などもあり、思うように作業が進みませんでした。結局、古代から江戸時代までの出来事をまとめた上巻を発行できたのは平成19年の3月。そして明治から平成20年までの出来事をまとめた下巻がこの3月によりやく発行される運びとなり、10年以上にも及ぶ編集作業がすべて終了となりました。横山昭男編さん委員長をはじめ、執筆にご協力いただいた関係各位の方々に対して、改めて感謝申し上げます。

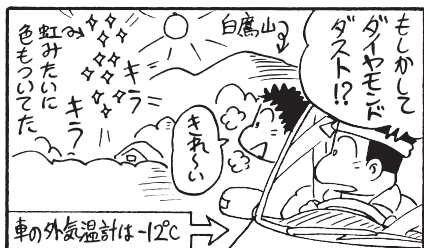
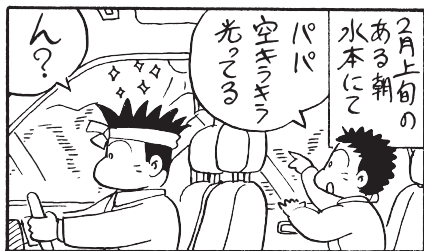
町民の方々はもちろんいろんな人に読んでいただきたいと思いますが、個人的には特に若い世代の方々に読んでいただきたく思っています。「温故知新」という言葉通り、過去の出来事を踏まえて今後の町政発展につなげて欲しいと思います。

28年以上の長きにわたり、このような仕事に携わらせていただいたことに改めて感謝いたします。ありがとうございます。

※1 小史：簡単にまとめた歴史、略史

※2 通史：時代・全地域・全分野を通して記述された総合的な歴史

ホリイ



マーティ先生の

朝日町見聞録

町ALTマーティ先生が日々の生活の中で感じたことを自由に表現します。（文章も本人）

マーティ 故郷の雪を思い出す

私の故郷、アメリカのコロラド州も山形県と同じようにたくさんの雪が降ります。小学生の時は、大雪が降ると学校が休みになりました。夜に大雪が降りそうな、ちょっと暗くてピンク色の空を見ると、わくわくしてあまり眠れませんでした。次の朝、目が覚めてもまだ半分寝ている状態のとき、お母さんが寝室のドアから「『大雪で今日学校は休み』ってラジオで流れてたよ」と声をかけてくれました。そう聞くと、もう一回ゆっくり寝て、そのあとたっぷり雪遊びをして楽しみました。

雪遊びと言えは、かまくらをよく作りました。完成すると、お母さんが暖かいココアを作ってかまくらに持ってきてくれました。飲んだ後に家族全員で雪合戦をしました。子どもの時は雪が本当に楽しかったですね！

朝日町の雪は半分楽しいけど、半分大変です。もちろん、スノーボードに行けるし、朝日中学校の窓から見る雪景色はとても綺麗です。でも雪かきは大変、雪道も危ないです。何より寒さが・・・。

雪が降っている時は何も聞こえなくて、すごく静かになります。
冬の静寂はいいですね。



町立図書館おすすすめ

今月話題の本

■廃墟に乞う／佐々木 譲 著



ニセコの貸し別荘で見つけた女性の絞殺死体。仙道孝司はオーストラリア人と日本人不動産会社との確執に事件解決の鍵を見出す。「オージー好みの村」など、休職中の道警刑事、仙道が北海道の全域を駆け回る連作小説集。

【その他の新刊】

▼TRIP TRAP／金原ひとみ ▼親鸞上・下／五木寛之 ▼兇弾／逢坂剛 ▼花世の立春／平岩弓枝 ▼夢ほりびと／池永陽 ▼張り込み姫／垣根涼介 ▼ダブル・ジョーカー／柳広司 ▼ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。／辻村深月 ▼龍馬が見た長崎／野順一 ▼龍馬とその時代／佐々木克 ▼八王国記4／麻木未穂 ▼テメラレ戦記3／ナオミ・ノヴィク ▼小説新井白石一幕政改革の鬼ー／童門冬二 ▼ごっつあい奴ー浪花の夢の繁盛記ー／江上剛 ほか

■じぶんの木／最上 一平 作、松成真理子絵



自然とともに生きてきた
伝じいはわたるに語って聞
かせました。だれでも、ど
こかに「じぶんの木」とい
うものがあるんだと…。
自然とともに生きる者のた
くましい姿、すべての命を
尊ぶ繊細な心を描く。

■ブックテーマコーナー 「これまでの本屋大賞受賞作＆ノミネート作品」 特集

榊壽太さんに全日本剣道連盟 「剣道有功賞」

このほど、榊壽太さん（大谷一）が全日本剣道連盟より「剣道有功賞」を受賞されました。

榊さんは昭和63年4月から平成21年3月まで21年間の長きにわたり、山形県剣道連盟監事を務め、県剣道界の振興発展に寄与。その功績が認められたものです。

県剣道連盟の要職のほか、過去には町体育協会や剣道連盟の会長も歴任された榊さん。今回の受章については、「誠に光栄の至りです。これも、剣道が盛んな朝日町の皆様の支えがあってこそそのものと思います。改めて感謝申し上げます」と語っていました。



大谷三区の子育て世代が町長と対談 「町長と若者の語る会」

2月9日、「町長と若者の語る会」として、大谷第3区に住む20代から40代までの方々と町長との対話会が開催されました。



現在、39世帯のうち、中学生以下の子どもを持つ家庭が3分の1を超えるという、まさに子だくさんの同区。親同士の交流も活発で、一緒に海水浴に出かけるなど、楽しく暮らしているそうです。今回の企画は、今年の「町長と語ろう」に参加した30代の方が、その場で「若い世代の意見にも耳を傾けて欲しい」と、同世代限定の「語る会」を提案。その意見に町長が快く応じ、この日は主に小学校低学年までの子どもを持つ子育て世代の方々を中心に18人が参加しました。

会では、あさひ保育園や学童保育、高校再編など、子どもに関するものから、定住・結婚対策、企業誘致などまで様々な意見が出され、参加者がそれぞれの思いを町長に伝えました。要望のほかに「町内で婚活パーティーを企画したい」など、具体的に前向きな意見も数多く出され、町長はその一つに対し、熱心に耳を傾けていました。

各種大会の成績

■平成21年度山形県総合スキー大会（1月17日～22日／最上町赤倉温泉スキー場ほか）

▼男子回転 優勝 清野嵩悠
（山形中央高校1年／四ノ沢）



（写真提供：山形新聞社）

■平成21年度町小学生スキー記録会（2月2日／朝日自然観スノーパーク）

▼5年男子①阿部大貴（西）②鈴木貴大（大）③田中友崇（宮）④阿部達（西）⑤阿部篤（西）⑥佐竹優真（西）
▼5年女子①遠藤みのり（大）②五十嵐美輝（大）③小川未央（宮）④長岡真緒（西）⑤小松星奈（宮）⑥佐藤夏奈（宮）
▼6年男子①安藤力哉（宮）②岡崎祐（宮）③鈴木諒真（宮）④村山諒真（宮）⑤白川直樹（西）⑥阿部聖弥（西）
▼6年女子①齋藤早紀（宮）②白田彩華（大）③海野真理（宮）④若月梨加（宮）⑤菅井里咲（宮）⑥伊藤華（宮）

■第46回町民卓球まつり（2月7日／町民体育館）

＝団体戦＝ ①送橋（清野雅英監督）②卓球好きだず（菊池育心監督）③朝日中親子B（五十公野龍二監督）

＝個人戦＝▼小学男子①長岡翼（常盤）②阿部篤（常盤）③阿部将史（常盤）④佐竹康平（松程）▼小学女子①長岡真緒（常盤）②阿部雪奈（常盤）③長岡志保（常盤）④阿部奈於（常盤）▼中学男子①遠藤幹士（舟渡）②五十公野祐典（西町）③阿部航瑠（常盤）④長岡優汰（太郎二）▼中学女子①阿部愛美（常盤）②阿部果歩（常盤）③阿部翔子（ハツ沼）④堀清楓（舟渡）▼オーブンダブルス（公式）①鈴木豊和（助ノ巻）・阿部良輝（ハツ沼）組②峯田彰（大東建設）・村山辰雄（大町）組③清野友麻子（送橋）・清野友理子（送橋）組④菊池育心（ニクニ）・設楽拓也（ニクニ）組▼同（ラージ）①鈴木藤七（西町）・松田カツヨ（西町）組②佐藤美知子（夏草）・斎藤利彦（夏草）組③阿部恵（常盤）・阿部裕子（常盤）組④志藤克美（前田沢）・長岡好（前田沢）組

■第13回町民柔道大会（12月23日／朝日中学校武道館）

▼小学2年以下①村山悦史（常盤）②朽木叶（西町）▼小学3・4年①朽木大輔（西町）②村山朝師（常盤）③阿部大悟（大谷五）▽小学5・6年②海野静哉（ハツ沼）②鈴木諒真（助ノ巻）③佐竹優真（常盤）③朽木海晴（西町）▼中学生以上①佐竹恭亮（常盤）②五十嵐剛史（中沢）③佐竹真人（栗木沢）③海野美里（ハツ沼）



■平成21年(2009年)
12月1日～
■平成22年(2010年)
1月31日 届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
大谷四	鈴木 木 くりあ	女	征司・絵里子
四ノ沢	石 塚 凜也	男	公貴・照美
助ノ巻	阿 部 日菜吏	女	尚貴・直美
助ノ巻	富 樫 真琴	女	浩輝・千鶴
四ノ沢	阿 部 秀之助	男	健・万利子
古 楨	清 野 莉音	女	敏幸・志穂



おしあわせに

佐 竹 隼 人 (栗木沢)		越 前 瑠 美 (寒河江市)
宮 本 哲 朗 (西船渡)		阿 部 みづえ (本 町)
白 田 薫 (大谷四)		渡 部 美 佳 (山辺町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
西 町	安 藤 利 美	真 一
夏 草	阿 部 タ ケ	正 春

大 沼 栗木沢 宿 太郎三 大谷六 常 盤 舟 渡 ハツ沼 沼 向 栗木沢 助ノ巻 前田沢 前田沢 沼 向 中 沢 太郎一 太郎二 太郎一 太郎三	小 志 菅 井 長 岡 白 田 阿 部 五十嵐 阿 部 菅 井 遠 藤 布 施 菅 井 鈴 木 菅 井 菅 野 鈴 木 長 岡 長 岡 長 岡	林 藤 井 岡 田 部 隆 夫 嵐 部 正 一 善 治 嘉代子 亀太郎 正 三 サチ子 五三郎 勝 利 佐 利 俊 治 周 眞 岡 誠	與一郎 ひろゑ よしの ふぢゑ 吉之助 隆 夫 たけの 正 一 善 治 嘉代子 正 三 サチ子 五三郎 勝 利 佐 利 俊 治 周 眞 岡 誠	よし子 一 良 二 利 巳 嗣 寛 く に 義 信 はつよ 善 雄 政 則 久 志 政 夫 季 一 貴代子 進 利 博 昭 男 けい子 オトキ
---	--	---	--	---

人口と世帯数

●平成22年1月31日現在	
人 口	8, 223 人 (ー21)
男	4, 076 人 (ー14)
女	4, 147 人 (ー7)
世帯数	2, 533 世帯(±0)
	()内 前々月比
—— 12月～1月中の異動 ——	
出 生	6 人 転 入 13 人
死 亡	21 人 転 出 19 人

「広報あさひまち」が特選

県市町村広報コンクール

このほど、「第50回山形県市町村広報コンクール」の審査結果が発表され、「広報あさひまち 2009年7月号」が、「広報誌 町村の部」で特選、「一枚写真の部」「組み写真の部」で同6月号、11月号がそれぞれ入選2席を獲得しました。(各部門で特選が1点、入選が1席から5席まで選ばれています)

これも取材にご協力いただいた方をはじめ、町民の皆さんの応援の賜物と感じております。今後ともよろしくお願いいたします。



■広報誌町村の部 特選
7月号「多様な農業にチャレンジ」



■1枚写真の部 入選2席
6月号「氷本菜の花プロジェクトを学ぶ宮宿小児童」



■組み写真の部 入選2席
11月号「Asahi自然観20周年秋まつり」

わたしの作品



鈴木 ^{かい}海 くん
(西五百川小3年／西船渡)

去年の5月に体験した「りんごの花つみ」の様子を描きました。

工夫したところはりんごの花。花つみの絵なので、実際よりも大きく描きました。あと、作業している手の様子もうまく描けたと思います。

図工は授業の中で一番好き。これからも絵をいっぱい描いて、もっともっとうまくなりたいです。



第51回県子ども絵画展 奨励賞受賞作品
「はじめてのてき花」

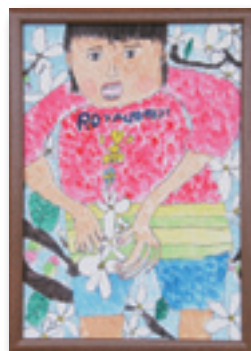
今回の県子ども絵画展では、海くんのほかにも、摘花を題材にした西五百川小学校3年生の作品が多数入選しています。



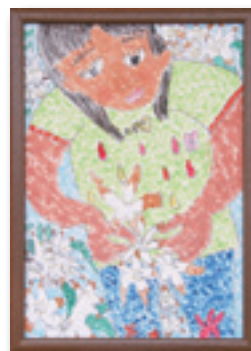
佐竹崇康くん(能中)



伊藤瑞樹さん(能中)



長岡佑希さん(太郎一)



海野優香さん(能中)

春夏秋冬

編集後記

台湾りんご取材
あれこれ

このほど、台湾でのりんご販促活動に同行させていただきました。私は写真撮影を中心に行いましたが、生産者の方と一緒に試食販売も体験しました。本文中にもある通り、私が担当した売り場でも一部贈答品とは言えないようなものも入っており、品質管理の重要性を感じたところです。

りんご以外で感じたのは、台北市はとにかく「大都会」だということ。試食コーナーを行った高級百貨店には、「シャネル」「エルメス」などの高級ブランド店が並び、そこから一歩外に出ると、東京と同じような景色が目につきました。その大きな光景を目にし、この取り組みの大

きさと、私自身、広い視野で物事を考える必要性を改めて感じました。ただ、4泊5日の滞在中、毎日出される脂っこい中華料理には、日本食が本当に恋しくなりました。自宅から持参した梅干を毎日2〜3粒ほど食べていたほか、4日目には現地にある日本の定食屋に足を運び、ご飯のトッピングには「とろろ」をお願いしました。食べ物って本当に大事ですね…。

※今月から広報作成用ソフトを多機能なものに更新しました。まだまだ、学習途中ではありますが、より見やすい誌面になるよう少しずつ使いこなしていきたいと思います。

佐久間 淳